

# 本日の内容

---

- 全農グリーンメニューの概要
- 全農グリーンメニューの取り組み事例報告
- 全農イチゴハダニゼロプロジェクトの概要
- イチゴハダニゼロプロジェクトの取り組み事例報告

- I 2022年度九州地区実証圃について**
- II イチゴハダニゼロプロジェクトで分かったこと**
- III 東日本IPM研修会について**

# 2022年度九州地区実証圃の試験結果

イチゴハダニゼロプロジェクトで作成した防除プログラムの実証試験を実施しました。

| 実施県 | 圃場数 |
|-----|-----|
| 福岡県 | 2圃場 |
| 佐賀県 | 2圃場 |
| 長崎県 | 2圃場 |
| 熊本県 | 1圃場 |



# 2022年度九州地区実証圃の試験結果

## ハダニ発生調査方法(育苗期～本圃 月1回調査実施)「イチゴハダニゼロプロジェクト」リーフレットより

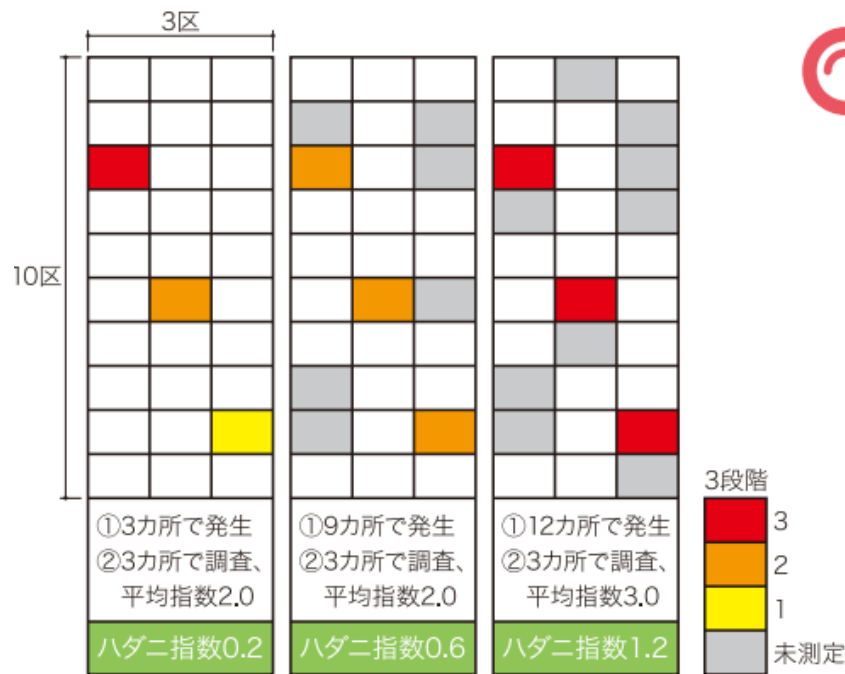
**1** 調査する圃場を、畝毎(列毎)に100株程度に区分けします。

**2** 株の上から達観調査を行い、ハダニ発生が1株でもあったら、ハダニ発生区とします。

**3** ハダニ発生区から代表2～3区選び、その内の連続する10株についてハダニ数を測定し、3段階に評価します。  
(指数3:51頭以上/複葉、指数2:11～50頭/複葉、指数1:10頭以下/複葉)

**4** 評価を集計し、圃場全体のハダニ指数を算出します。  
(圃場全体ハダニ指数=代表区の平均ハダニ指数×ハダニ発生区画数÷全区画数)

### 【圃場全体ハダニ指数の測定例】

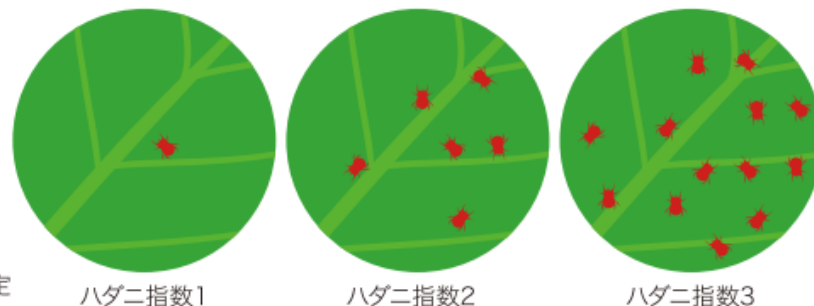


### チェック!

#### 圃場全体ハダニ指数とは?

圃場の一部を調査した結果から、圃場全体のハダニ発生状況を指数化することで、防除プログラムの効果を把握できます。

### 【ハダニ指数のイメージ図(小葉1枚にいるハダニ数)】





## （ゼロ放飼の重要性を確認

※防除効果:期間中の最大圃場全体ハダニ指数  $\bigcirc < \text{指数} 0.2, 0.2 \leq \Delta < 0.6, 0.6 \leq \times$  ※湿度評価: A-カブリタ増殖に好適、B-適、C-不適

# イチゴハダニゼロプロジェクト実証試験で分かったこと

「イチゴハダニゼロプロジェクト」リーフレットより

## 1. 放飼後のハウス内湿度管理の重要性

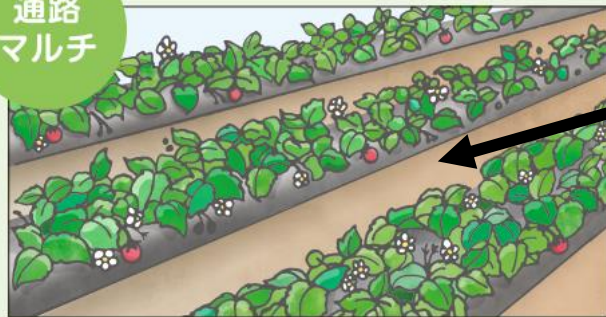
### 【ミヤコバンカー放飼後のポイント】

ミヤコバンカー放飼時のハダニ密度ゼロ達成と**放飼後1か月間のハウス内湿度(晴天日昼間8時間)50%以上**の維持がハダニ防除に重要となります。

### ハウス内の湿度管理とハダニ防除効果の関係

| ハウス内環境                      | ゼロ放飼達成                                                                                 | ゼロ放飼未達成                          | 1か月後のハダニ密度抑制効果                                                                                           |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 評価 ○<br>晴天日昼間8時間<br>湿度50%以上 | 福岡U('22) 福岡S('22) 奈良O('22)<br>千葉H('22) 千葉K('22) 長崎T('23)<br>徳島Z('23) 奈良T('23) 埼玉O('23) | —                                | 福岡U('22) 福岡S('22) 奈良O('22) 長崎I('22)<br>千葉H('22) 千葉K('22) 長崎T('23) 長崎T('22)<br>徳島Z('23) 奈良T('23) 埼玉O('23) |
| 評価 ✕<br>晴天日昼間8時間<br>湿度50%以下 | 長崎I('22) 熊本N('22) 奈良I('22)                                                             | 長崎T('22)<br>佐賀T('22)<br>千葉I('22) | 熊本N('22) 奈良I('22) 佐賀T('22) 千葉I('22)                                                                      |

通路  
マルチ



## ハウス内環境を最適化するための湿度維持方法

### 土耕栽培

通路部分に有機物資材(稲わら、ケイントップ、モミガラ等)を敷設する。⇒畝マルチを株元でホチキス止めする場合、ハウス内湿度が極端に下がることがあるため、有機物資材の敷設により湿度改善につながります。

### 高設栽培

#### 【灌水余剰水が架台下に垂れる場合(かけ流し)】

ビニール被覆を地面から1/3程度開けることでハウス内湿度改善につながります。(目安:ミヤコバンカー設置後、1か月ほど継続する)

#### 【灌水余剰水が架台下に垂れない場合(循環型)】

架台下に有機物資材を敷設して、定期的に打ち水を行うことでハウス内湿度改善につながります。

### 【ハウス内の温湿度管理】

ハウス内温湿度データ等の測定が可能な環境モニタリング装置(はかる蔵など)による管理を行い適切な温湿度管理を行う。

# イチゴハダニゼロプロジェクト実証試験で分かったこと

## 2. ノズル別薬剤付着量・散布水量の重要性 3. 展着剤加用の有効性

「イチゴハダニゼロプロジェクト」リーフレットより

### 2. 散布ノズル別の薬剤付着量と散布水量の重要性

参考データ 試験／ノズル別の薬剤付着量評価（A～C）

| ノズル名称         | 表評価 | 裏評価 | 総合評価 |
|---------------|-----|-----|------|
| 1 イチゴセイバーノズル  | A   | A   | A    |
| 2 小六角丸5頭口ノズル  | A   | B   | A    |
| 3 新広角たて3頭口ノズル | C   | A   | B    |
| 4 5頭口スズランノズル  | A   | C   | B    |
| 5 鉄砲ノズル       | C   | A   | B    |
| 6 10頭口スズランノズル | A   | C   | B    |

おすすめ

おすすめ

品種：とちおとめ、阿波ほうべに  
出典：JA全農  
(2023年千葉、徳島)

#### 【試験概要】

1試験区あたり10株、1株当たり上部・外部・内部の葉の表と裏に、3×3cmのろ紙を貼付けノズル散布後の薬剤付着量を分析。

A評価  
付着



※薬液を赤色色素で表現

B評価  
付着



C評価  
付着



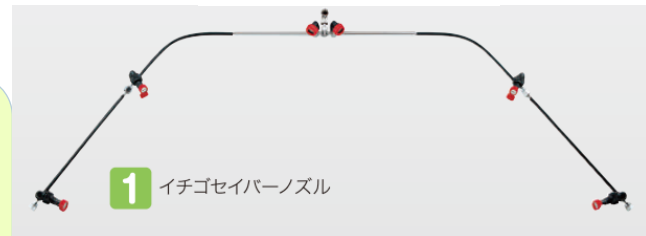
#### 【散布水量目安】

- 育苗期：60～100L/10a分苗（6000株基準）
- 本圃初期：250～300L/10a（親株では20L/300親株）

#### 【葉裏への薬剤付着のポイント】

ハダニ類は葉裏に多く存在しているため葉裏への薬剤付着量を高めることで防除効果が安定します。育苗期には「**新広角たて3頭口ノズル**」、本圃では「**イチゴセイバーノズル**」での散布がおすすめです。

イチゴセイバーノズル



新広角たて3頭口ノズル

### 3. サフオイル乳剤の薬害軽減

サフオイルは、湿展性の高い展着剤（まくぴか等）を加用し、早く乾くような天候・時間帯に散布することで薬害リスクを軽減できます。

【散布目安時間：晴天日午前中】

他にも実証試験で得た知見について検証した結果を、イチゴハダニゼロプロジェクトリーフレットに記載しています。



# 東日本IPM研修会について





## 最後に

---

- 本プロジェクトについては、生産者様、県行政・普及センター・試験場の皆様、農薬メーカーの皆様、JAグループ関連団体の皆様といった様々な方々のご協力により実施することができましたこと、感謝申し上げます。
- 今後もJAグループとして総合防除に活用できる情報について発信できるように努めていきます。

ご清聴ありがとうございました！